




## 令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

## 事業実施報告書

- |     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| I   | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び   |
| II  | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成           |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築        |
| IV  | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V   | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成      |

道府県・政令市名【 福島県・いわき市 】

学校名【 いわき市立植田中学校 】

1 実践テーマ	V
2 実施対象者 (学年・人数)	いわき市立植田中学校 第3学年 生徒 149名 第2学年 生徒 144名 【合計293名】
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 総合的な学習の時間 ) ② 行事名 ( ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピックを通じて 福島から世界に挑戦する人材や取り組みを知ること、ふるさとを再発見するとともに、障がい者スポーツや共生社会への理解を深め、スポーツを楽しむ心を育む。
5 取組内容	<p>○ スポーツ笑顔の教室（オンライン授業）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ心のプロジェクトによる「スポーツ笑顔の教室」を開催。2年生が、アスリートである「夢先生」とオンライン授業で交流し、「夢を持つことの素晴らしさ」「努力することの大切さ」などについて学んだ。</li> </ul>   

○ オリンピック・パラリンピック教育推進事業講演会

・ 2, 3年生を対象として、日本ラグビー協会男子セブンスユースアカデミー統括の坂本幸司さんをお迎えして講演会を実施した。日本開催で成果を収めたラグビーワールドカップへの取り組みから、スポーツの価値や世界的大会の意義について学ぶことができた。



オリンピックで行われるラグビーのセブンスについても見識を広げることができた。

○ 3年スポーツイベント「オリ・パラ競技植田中大会」

・ 3年生による企画「スポーツイベント」において、オリンピック・パラリンピック種目での競技大会を開催した。バスケットボール、卓球、ボッチャをクラス対抗で行い、競技者としての視点、観戦者としての視点の双方から競技を体感し、競技の面白さや奥深さについて学ぶことができた。



競技を体感し、競技の面白さや奥深さについて学ぶことができた。

6 主な成果

○ 国際大会での活躍に向けての組織的な強化の取り組みを知ること、オリンピック・パラリンピックへの思いを強くするとともに、どのような場面においても、活躍する為に大切なことのひとつが「コミュニケーション」であることを学ぶことができた。

○ 今できることに全力で取り組むことが、この先の自分たちの人生にとってかけがえのないものになることを学び、中学校生活やその先の進路についても考えを深めることができた。



<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ コロナ禍で関東圏からの講師への依頼・調整が難しい中、地元いわき市で国際的にスポーツに関わり、オリンピック・パラリンピックの成功に向けて活躍されている方との交流を事業の中心に据えたいと考えた。</li> <li>○ いわき市で高等学校教諭を務めながら、日本ラグビーフットボール協会で選手の強化・育成に尽力されている坂本先生からご講演いただくことで、オリンピックやパラリンピアンとして活躍されている選手だけでなく、身近なところからそれら選手の活躍を支える方々に目を向ける機会とし、単に競技結果で一喜一憂するのではなく、スポーツ文化全体に視野を広げる実践となるよう工夫した。</li> </ul>
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オリンピック・パラリンピック大会の実績や知名度で講師を選定した場合、講演や交流の際の日程の調整が非常に難しくなる。特に、教育課程を年度途中で変更しながらの事業実施となると学校としての負担がとて大きくなる。</li> <li>○ 学校としては、教育課程の中で無理なく実践でき、講師の先生との連携も取りやすい形での計画とすることがとても重要だと感じた。今年度はコロナ禍で、講師の先生にもご負担をおかけする形で事業を進めたが、2日間に分けたご講演で、それぞれに学年の課題に応じた内容にアレンジしていただくなど、生徒のために臨機応変に対応していただけたことに感謝している。</li> </ul>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ スポーツを通じてより身近なところから世界を感じ、生徒自身が自分の可能性を広げ、夢を持てるような取り組みとして継続したい。</li> <li>○ 延期されている東京オリンピック・パラリンピック大会の開催年度であるため、オリンピック・パラリンピアンの派遣については、講師の選定や日程調整、新型コロナウイルス感染症への対策において困難な状況が予想される。事業の継続については、学校の負担が大きく、今年度と同様の事業内容では、学校としての計画立案と調整について難しいと考えられ、工夫・改善の必要を感じる。</li> <li>○ 東京オリンピック・パラリンピック大会の開催に向け、新型コロナウイルスに打ち勝つための方策を生徒自身が実行し、東日本大震災の被災地に生きる者として、復興を成し遂げるための教育活動に取り組むことで、東京オリンピック・パラリンピック大会の開催を支え、その経験こそをレガシーとできるよう努めたい。</li> </ul>